

令和 9（2027）年度の新しい教育課程

国際コミュニケーション研究科
国際コミュニケーション専攻（博士前期課程）

授業科目の概要		配当 年次	単位数又は時間数			授業 形態	備考
			必修	選択	自由		
言語・コミュニケーション科目	英語コミュニケーション特殊演習 1	1・2		2		演習	選択 必修 4 単位
	英語コミュニケーション特殊演習 2	1・2		2		演習	
	中国語コミュニケーション特殊演習 1	1・2		2		演習	
	中国語コミュニケーション特殊演習 2	1・2		2		演習	
	日本語特殊演習 1	1・2		2		演習	
	日本語特殊演習 2	1・2		2		演習	
	コミュニケーション特殊講義 1	1・2		2		講義	
	コミュニケーション特殊講義 2	1・2		2		講義	
	コミュニケーション特殊講義 3	1・2		2		講義	
日本文化・社会科目	日本文化特殊講義 1	1・2		2		講義	選択 必修 4 単位
	日本文化特殊講義 2	1・2		2		講義	
	日本文化特殊講義 3	1・2		2		講義	
	日本文化特殊講義 4	1・2		2		講義	
	日本社会特殊講義 1	1・2		2		講義	

	日本社会特殊講義 2	1・2		2		講義	
	日本社会特殊講義 3	1・2		2		講義	
国際文化・社会科目	国際コミュニケーション特殊講義	1・2		2		講義	選択 必修 4 単位 上記各科目群の選択必修単位以外 10 単位以上を履修し、合計 22 単位以上
	国際文化特殊講義 1	1・2		2		講義	
	国際文化特殊講義 2	1・2		2		講義	
	国際文化特殊講義 3	1・2		2		講義	
	国際社会特殊講義 1	1・2		2		講義	
	国際社会特殊講義 2	1・2		2		講義	
	国際社会特殊講義 3	1・2		2		講義	
研究指導	研究指導 1（発表指導・研究倫理含む）	1・2	2			演習	必修 8 単位
	研究指導 2（発表指導・研究倫理含む）	1・2	2			演習	
	研究指導 3（発表指導・研究倫理含む）	1・2	2			演習	
	研究指導 4（発表指導・研究倫理含む）	1・2	2			演習	

履修方法（博士前期課程）

科目	必修	選択 必修	選択	備考
言語・コミュニケーション科目	0	4	10	選択とは、各科目群の選択必修単位以外 10 単位以上の意味
日本文化・社会科目	0	4		
国際文化・社会科目	0	4		
研究指導	8	0		
合計	8	12	10	30 単位以上

修了要件：必修科目単位 8 単位、選択必修科目 12 単位、選択科目 10 単位（備考欄記載の条件を満たすこと）以上、合計単位 30 単位以上を修得した上で修士論文を提出し、本大学院が行う修士論文の審査及び最終試験（口頭試問）に合格しなければならない。

博士前期課程の 3 つのポリシー

修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

（１）国際コミュニケーションの知識と理論

多様化・複雑化する国際コミュニケーションの理論を中心に、専門性の高い見識を深め、高度な学識を身に付けた人材。

（２）研究者としての汎用的技能

カリキュラムの多面的履修を通して、知識基盤社会を支える高度のコミュニケーション・スキルとして語学、その背景にあるコミュ

ニケーション理論を備え、研究者として問題を解決に導く姿勢を身に付けた人材。

(3) 研究者としての態度・志向性

建学の精神「他者理解」に基づき、研究倫理を遵守し、研究者として研究計画・研究発表・研究報告・論文執筆に真摯に取り組む姿勢を身に付けた人材。

(4) 総合的な研究経験を通しての創造性と独自性

「講義」「演習」を通して身に付けた専門的な知識を基に、研究指導を十分に受け、国際コミュニケーションの視点からの研究をまとめた修士論文が、知識の活用能力、批判的・論理的思考力、問題解決力、表現能力、コミュニケーション能力などを統合し、これまでの先行研究を踏まえ、十分な実証が行われ、確かな見識を身に付けた人材。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

- (1) 知識基盤社会を支える高度なコミュニケーション・スキルを備え、我が国及び国際社会の発展と文化の進展に寄与し、専門性を構築できる人材養成を目指し、言語・コミュニケーション科目、日本文化・社会科目、国際文化・社会科目を配置する。
- (2) 言語・コミュニケーション科目では英語・中国語又は日本語によるコミュニケーション能力を国際社会で通用するレベルまで引き上げ、日本を基盤に置いた国際コミュニケーションを具体化するために、中国語においては日中比較言語の視点よりコミュニケーション能力を高める科目を配置する。
- (3) 日本文化・社会科目では日本を起点にして「自己と他者」、「共通性と共感」を意識し、国際的な視点から見た日本文化・社会について問題意識と研究課題を持って研究に邁進するための科目を配置する。
- (4) 国際文化・社会科目では日本・米国・中国を中心にして、「自己と他者」、「共通性と共感」といった国際コミュニケーションに関する問題意識と研究課題を持って研究に邁進するための科目を配置する。
- (5) しっかりとした勤労観、職業観を持ち、研究者としての姿勢を身に付け、それぞれが直面するであろう様々な課題に柔軟にかつたくましく対応し、社会人・職業人・研究者として自立していくことができるようにするため研究指導（発表指導・研究倫理を含む）を位置付けた。
- (6) これまで身に付けた知識基盤社会を支える高度なコミュニケーション・スキル及び専門性の深い見識を統合し、院生全員に対して最終的には修士論文として結実できるよう、研究指導教員により細かな研究指導を行う。研究指導は必修として位置付け、研究者としての姿勢や社会人として自立できるような人間教育を兼ねる。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

○教育目的

国際感覚を持ち、国際的舞台や大学、研究機関等で研究者として活躍しうる知識、言動、行動に加え、異文化理解に関するコミュニケーション能力を有し、知識基盤社会をリードする高度な学識を備えた人材育成を目的とする。

国際コミュニケーションを実現する為に、高度なコミュニケーション・スキルや理論を修得した上で、国際的な視点から日本文化・社会を捉え、国際文化・社会の深い理解力を身につけた、高度な学識を備え、学際的な教育・研究を行うことを教育研究の目的とする。（本大学院学則第五条より）

○求める人材像

「国際コミュニケーション」に関する専門的知見を高め、これをもって知識基盤社会を支え、高度な学識を備え、且つ職業的舞台で展開していくスキルと知識を深めるという実践的観点から、教育・研究を行うことを理念とする。そこで、高度なコミュニケーション・スキルや理念を修得した上で、日米中を中心とした文化・社会の深い理解力を身につけ、高度な知的素養を備える人材の養成を目的とする。（本大学院学則第五条より）

○入学者選抜方法

武蔵野学院大学大学院では国際感覚を持ち、国際的舞台や大学、研究機関等で研究者として活躍しうる学生の受け入れを図るべく、多様な入学者選抜方法を設ける。上記の「求める人材像」を踏まえ、教育目標達成にそって各選抜方法では以下の点を評価する。

・学内進学者選抜

本学の国際コミュニケーション学部において、教育目標を十分理解し、明確な目的意識をもって大学生活を送り、「国際コミュニケーション」に関する専門的知見を高めてきたかを評価する。知識基盤社会を支え、高度な職業的舞台で展開していくスキルと知識素養を備えるという実践的観点から、将来、研究に従事でき、高度な実務を担える人材で、修士論文をまとめることができる人材を求める試験。面接及び書類審査を課す。

・一般選抜

本専攻の教育目標を十分理解し、明確な目的をもって研究生生活を送ることができるかを評価する。加えて、その基盤となる力としての英語力を確認する。知識基盤社会を支え、高度な職業的舞台で展開していくスキルと知識素養を備えるという実践的観点から、研究に従事

でき、高度な実務を担える人材で、修士論文をまとめることができる人材を求める試験。英語、小論文、面接及び書類審査を課す。

- ・社会人選抜

社会人として培った経験、その経験から得たコミュニケーションの力や積極的に物事を理解しようとする意欲、明確な問題意識をもって研究生を送ることができるかなどを評価する。知識基盤社会を支え、高度な職業的舞台で展開していくスキルと知識素養を備えるという実践的観点から、研究に従事でき、かつ、社会人としての経験を生かし、修了後は問題意識をもって国際社会や地域社会に貢献で、修士論文をまとめることができる人材を求める試験。小論文、面接及び書類審査を課す。

- ・外国人留学生選抜

異なる言語・教育・政治・文化のもとに育った日本語能力の高い外国人留学生を院生として入学させ、修了後は、国際化の進む我が国と出身国との前向きな交流に貢献でき、かつ我が大学の伝統を受け継げる人材を確保する。このため、高度な日本語能力を有し、本学の大学院教育目標を認識し、将来の自分の専門に関して強い目的意識と勉学意識を有し、日々の研究活動に耐え、修士論文をまとめることができる人材を求める試験。小論文及び面接を課す。